

田吾作どん酪酊山人と語る

田吾作どん：どうも初めまして。

坂根先生のクラスの田吾作どんです。

酪酊山人：おお、最近話題になっとるクラスぢやな。

田吾作どん：うっ！言われてしまった！

酪酊山人：まあ、それはよいとして、話は何ぢやな？

田吾作どん：最近畑の被害が……

じゃなくて、最近の人への接し方について、クラスでの授業態度のこともです。

酪酊山人：さて、どんなところが問題になっとるのぢやな？

田吾作どん：まあ、あまり大げさではないのですが、【バキューン】（放送禁止用語）君なんか、平気で人に「身障」なんて言ってみたり、あまり関係ないが【ドキューン】（放送禁止用語）君なんて、テストの日やりに、先生がいなのをいいことに、こっそりパンを「パクッ」なんてこともあったんですよ。

酪酊山人：うむ。後者の場合はまわりの人にいやな思いをさせるのう。

田吾作どん：しかも、生徒だけではなく、先生への授業態度なんかも最悪。先生がいないからって、立ち歩いてみたり、後ろ向きに座ってみたり、授業中寝てみたりなんてのはしょっちゅう。

こわい先生が来たらやめるのはまだいい方で、どんな先生が来ようとも平気。少々オーバーだが、こんなものです。

酪酊山人：ほう、なかなか度胸があるのう。

さすがは、我が弟子のクラスじゃわい。

うわあっはっはっ。

田吾作どん：笑っている場合ではありませんよ。結局困るのは周りの人たちなのでから。

さらにこのままだと、その少人数のせいで、学年一やばいクラスの烙印を押されてしまいますよ。

酪酊山人：まあ、よいではないか。

田吾作どん：よたって、そんな……

酪酊山人：まあ、聞くのぢや。

今言ったように、クラスとしてはダメダメと言ってもよいぢやろう。しかし、悪いのはその中の数人ぢやて。まあ、結局あとで困ったことになるのはその人らだけ。つまり自業自得。だから、言ってもきかんやつに言うよりも、自分がマシであろうと考えて、行動すればよい。

田吾作どん：そんな消極的なのが解決法？

酪酊山人：バカタレ！

今までののはすべてアドバイスぢや。これから先は自分で考えい。

田吾作どん：……はい……。

ではこれからちょっと考えてみます。では遅くなりましたのでこれで……

酪酊山人：うむ。また問題があったら来るがよいぢやろう。もう暗いので、気をつけてな。

田吾作どん：そんな小学生みたいな……

（このあと、帰られるのかはあなたの想像にまかせます。）

(後日談)

酩酊山人：なかなか生徒の作品にもおもしろいのが
あるのう。

坂根：そうでしょ。

さすがは1年6組ですね。

酩酊山人：自分でほめてどうする！

だいたい、クラスの問題はそう解決しと
らんではないか。

坂根：いや、しかし、掃除はかなりまともになり
ましたよ。

でもさぼる者、いい加減な者、ただいるだ
けの者なんてのはまだまだいますけどね。

酩酊山人：すなわち餓鬼ぢやな。

坂根：そうなんですよ。

叱らなくてはわからない、餓鬼なんです。

これでは本当にわかったことにはなりません
ね。

女子の中にはもっと叱れ！という声もあり
ますが、自分でできなければ、結局一緒で
す。

田吾作どんの話にもありましたが、どんな
先生がきても同じというのは、うそをつい
ていないという面ではまだましかもしれま
せん。こわい先生の前だけ、いいかっこす
る方がろくでもない餓鬼かもしれません。

酩酊山人：その通りぢやのう。

本当にわかったものは、誰が見ていても、
見ていなくてもできるものぢや。

そうならなければ、本当の成長とは言えな
い。

しかし、そもそも何をしたらいいのか、何
をしたらいけないのかがわかっていないの
ぢやから、まだまだ6組には餓鬼も畜生も
多いと見たがのう。

坂根：いつ人間になるのでしょうかねえ。

酩酊山人：お主も悩みは尽きぬのう。

(といつつ、2人は酒を酌み交わし、夜は更け
ていくのであった。)